

SCHOOL DATA

〒270-1132 我孫子市湖北台4-3-1
 TEL.04-7187-2951 FAX.04-7187-2952
 ■児童数/286人 ■教職員数/28人 ■周辺環境/住宅地 (平成20年5月1日現在)



森の学校

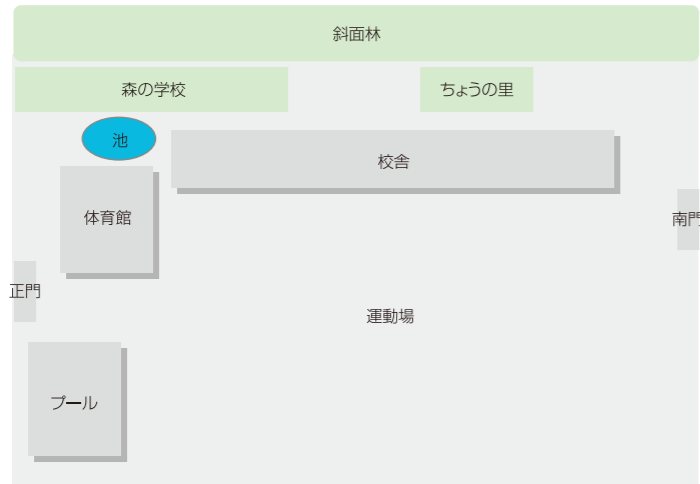
ビオトープの概要

- 場所/学校敷地内
- 面積/600㎡
- 設置者/学校
- 設置した年/2003年
- 直近の改修年/2008年
- 主な管理者/教職員
高学年児童

<コンセプト>

ビオトープは、雨水を導入した池(約15㎡)と学習林「森の学校」(約550㎡)、チョウの食草を植えた「チョウの里」(約40㎡)で構成され、森の中には、観察用の椅子、テーブルと遊歩道がある。森は、学校設立時の植樹によりできたものであるが、その東側にある斜面林(約1,500㎡)は学校設立以前からある自然林であり、多くの野鳥が訪れる。

児童が、水生生物や昆虫や野鳥に触れ合うことにより、自然の仕組みを理解し、心豊かでやさしい子が育つことを期待している。また、この地域は手賀沼に近いので、手賀沼及び周辺の斜面林などの自然を理解する助けとなることを目指している。



生息している生物

- <池>
動物:メダカ、ドジョウ、タニシ、ヤゴ等
- <森>
植物:イヌシデ、コナラ、クヌギ、スダジイ等
動物:シジュウカラ、コゲラ、オナガ、カブトムシ、コクワガタ、クロアゲハ、アオスジアゲハ、ツマグロヒョウモン等

今後生息させたい生物

以前手賀沼に多くみられた、ガシャモク、ササバモ、ガガバタ等の水生植物を池で育てたい。また、自然性が高いところに見られ、かつてはこの地域でも多く見られたオニヤンマが生息できるようにしたい。



幼虫の家



ため池拡張のためのメダカ救出

ビオトープの活用方法

■児童

3年生から6年生の総合的な学習で、それぞれの学年のテーマに沿った観察会を行う。

- 例えば3年生 ちょうちよとなかよし
- 4年生 鳥と友達になろう
- 5年生 稲から学ぼう知恵と技
- 6年生 呼びもどそう 東小に自然を

特に6年生は、手賀沼及び手賀沼周辺に生息する生物を調べた上で、ビオトープの生物と比較してみんなでその違いを考えてみる。

■保護者、地域住民

一日授業参観の日等に、ビオトープの観察会を行う。

ビオトープの効果

■児童への効果

生物と生息環境を観察することにより、自然の仕組みや湿地の環境、生物の環境サイクルなどについて理解を深め、環境保全についての意識を高める。また、日常的に生物に触れ合うことにより、命の大切さを理解し、心優しい子が育つ。

■教職員への効果

理科、総合学習の教材として、効果的に活用することができる。

■保護者、地域住民への効果

観察会などにより自然環境に触れ合う機会を提供するとともに、学校への理解も促進していくことができる。

保護者、地域との連携

保護者

今後、下草刈りや樹木の枝打ちなど、ビオトープの管理について、保護者と連携を図っていききたい。

自治会、町会

地域にビオトープを公開し、東小の自然環境に触れることで、環境教育に関心を持ち、「ふるさと地域」を愛する心情を涵養する。

整備・活用・管理等の課題

これまで、森の木々の枝打ち・間伐や下草刈り、池の底を浚うなどの管理が十分にできなかったため、地域や保護者との連携を含めて、管理ができる体制作りを進める必要がある。

活用についても、学習プログラムで有効に活用していく方策を考える必要がある。

今後の展望

市街化が進む地域にあって、貴重な自然環境としてその質を維持し、児童ばかりでなく地域の人にとっても環境学習や憩いの場になるようにしていきたい。

整備を担当した教員の感想

○池の外周を改良したことにより、児童が身近にメダカ等の観察ができるようになった。池そのものも広がったので、生息する生物の種類が増えることも期待できる。

○樹木の枝が伸びすぎたため、森の学校は鬱蒼として暗かったのだが、枝打ちにより観察しやすい明るい森になった。そのため、休み時間や放課後に訪れる児童が、目立って増えた。

○剪定した枝を運ぶトラックの手配や積み込み作業で、保護者や地域の人達の協力を得ることができてよかった。



ちょうの里

稲毛第一小学校
 稲浜小学校
 北野小学校
 生久小学校
 湖北台東小学校
 白銀小学校
 中川小学校
 名戸各々小学校
 南条小学校
 根本名小学校
 飯山海岸小学校
 花野井小学校
 水上小学校
 有枝東小学校
 市原八幡高校
 船橋芝山高校